

実践事例

(環境) 岩津中学校 1年

岩津の誇り 駒立のぶどうを守ろう

6月～11月(15時間)

1. ねらい

学区の駒立には、多くのぶどう園が存在し、全国的にも有名である。また、「駒立のぶどう」を誇りに思っている生徒はたくさんいる。

「駒立のぶどう」を題材にして、地域産業が抱えている課題を見つけ出し、自分たちができる解決策を考えさせる。課題の中には、環境や動物による被害があるので、生態系の一員である自分たちができることは何なのか考えていく。

1年生の総合は、駒立のぶどうについて考える『ぶどうチーム』、本校の近くに流れる青木川の汚染について考える『川チーム』、本校勤務の栄養主査の方から話を聞き、給食の残飯について考える『E.C.Oチーム』の3つに分かれて、環境・自然について違う問題点から考えることを進めていった。

2. 実践の概要

①ぶどう農家の方の話からぶどう園の歴史と課題を知る

事前に「駒立にぶどうが定着した理由」と「ぶどう産業に影響を及ぼすと予想される環境問題」について生徒たちは調べ、予備知識がついている。

講師に岡崎駒立ぶどう狩組合の岡田益夫さんをお招きして、今のぶどう園が抱えている課題を中心に駒立ぶどう園の歴史と現状について話を聞いた。

名鉄バスを開通させるための特産物を考え、もも・栗などを栽培した結果ぶどうだけが残ったことや今でも有名な理由は、お客さんを飽きさせないために品種改良をしていることを知った。また、抱えている課題は、1000㎡のぶどう園がイノシシやサルによって一晩で全滅してしまうことや後継者の数が少ないこと、来客数がだんだん減ってきていることであることを知った。

生徒たちは、動物による被害に一番驚いていた。

話の終わりに岡田さんが栽培したぶどうを試食し、生徒たちは「おいしい」や「こっちの方が柔らかくて食べやすいよ」など食べ比べをした。



駒立ぶどう園の歴史と
現状について話を聞く
(▼ 品種改良のぶどう)



②ぶどう園が抱えている課題を解決するために、自分たちのできることを話し合う

前回、岡田さんの話に出ていた課題は何かあったのか確認をしてから、「獣害」「後継者」「宣伝」の3つ班に分かれ、それぞれの課題解決方法はどんなことがあるか話し合わせた。

<p>(獣害)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気網を設置する。 ・出現する動物を教える。 ・山に入って捕獲する。 ・防犯カメラを設置する。 	<p>(後継者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちがぶどうを育てる。 〔校内・家・土地を借りる〕 	<p>(宣伝)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内にチラシを配る。 ・なごみにポスターを貼る。 ・回覧板にチラシを挟んで、地域の人に知らせる。
---	---	---

その中で、今の自分たちにできる方法を考えさせ、次回からの動きの計画を立てた。

獣害 … 獣害マップを作製し、ぶどう農家の方に配布して、栽培の時に役立ててもらおう。

後継者 … 栽培する前に、どの品種を育てるか決める。そのために、多くの品種について調べる。

宣伝 … ぶどうの効能などを調べ、見た人の興味がわくポスター(チラシ)を作製する。

③それぞれの活動を開始する

獣害

動物の出現情報を収集した。駒立学区の人でも知らない情報があったので、自分たちで駒立に行って聞き込みをしたり、インターネットで調べさせた。また、模造紙に駒立学区の地図を描き、出現情報を書き込むマップを作製した。

生徒たちは、一目で分かる地図にするために、イラストや色を使うことができた。また、ぶどう園の周りだけでなく、駒立学区には多くの動物の出現情報があり、山の食料や住む場所が減っていることに気づいた。



獣害マップの作製中

後継者

インターネットを利用して、それぞれの品種の栽培条件や味・見た目のことを調べた。岩津中学校での栽培に適している品種を選んだ結果、実が小さく食べやすい“デラウェア”に決まりました。

実際に植えることはできなかったが、生徒たちは自分たちでも育てることができることを知り、将来栽培してみようと思った。

宣伝

ぶどう狩の期間やぶどうの効能をインターネットや岡田さんの話から調べる。ぶどうには、疲労回復や栄養補給に効果的なことを知り、「自分たちも来年度のぶどう狩には行きたい。」と思った生徒がいた。



④各チームの意見交換

それぞれの班が調べたことを出し合い、「ぶどうチーム」の意見にまとめ、「ぶどう」「川」「ECO」の3チームの学習発表を行った。川の生き物や水質検査の結果、給食センターの残飯の量を見て、自分たちの行動次第で、環境は変わることを多くの生徒が感じていた。

3 実践を振り返って

地域の特産物「ぶどう」をきっかけに、環境問題や動物との共存について考えることができた。また、ぶどう狩発祥の理由やこれまでの苦労話を聞くことで、ぶどうに対する誇りがより深まったと思います。生徒の感想に「岩津の誇りである駒立のぶどうを途絶えさせないためにも、僕たちが宣伝し、より多くの人に食べてもらいたいです。」とありました。